

大学生を対象としたカーシェアリングの可能性に関する基礎調査

福井大学大学院	正 会 員	○川本 義海
福井県土木部	非 会 員	鈴木 勇人
福井大学産学連携本部	正 会 員	三寺 潤
福井大学大学院	学生会員	川上 祥代

1. 背景と目的

カーシェアリング（以下、CS）はこれまで都市部を中心に不特定多数の人を対象に展開され、またその規模は徐々にではあるが拡大しているものの、地方都市ではほとんど進んでいない。しかしマイカーに多くを依存しその所有が当たり前となっている地方都市において、一方では公共交通の衰退とその維持が大きな課題となっていることを考慮するならば、昨今の過度なマイカー依存を緩和しつつ、車をかしく使う方向に導く手段の一つとして注目されるCSには、マイカーと公共交通という対極的な交通手段の間を担うという新しい可能性が秘められているともいえる。またこれを大学生という運転免許を取得し車を所有することができる時期に実体験し、車の所有から使用への適度な意識形成と行動を実感させることができるならば、中長期的にみて地域交通の多様化の実質化と利便性向上にとって非常に有用であると考えられる。

そこで本稿では、車を運転、所有し交通行動を自分自身で選択することが可能となる大学1年生および大学生活をすでに経験済みの4年生に着目し、車の所有と使用という自身のモビリティに対しどのような意向を現時点で有しているかをアンケートおよびグループインタビューにより明らかにする。これにより、大学生を対象としたCSの可能性を探る上での基礎情報を獲得することを目的とする。

2. 車の所有・使用に対する意識と実態に関するアンケートおよびグループインタビュー

(1) アンケート調査の概要

学生の車の所有および使用に対する意識を把握す

るために、まず福井大学の大学1年生（教育地域科学部、工学部）に対し、運転免許の取得意向、車の所有状況（予定を含む）、大学を一拠点と仮定した場合の下宿（自宅）から大学までの距離（時間）、さらに今後の車の所有・使用の意向について調査した（2010年11月下旬～12月中旬まで）。調査方法は、各学部の各コース・学科で開講されている1年生の必修科目を対象に授業時にアンケート票を配布し、両学部の1年生全725人中422人（1年生全体の58.2%）から回収した。性別は男性80%、女性20%、教育地域科学部23%、工学部77%、自宅42%、下宿等58%となった。

(2) グループインタビュー調査の概要

1年生には先に実施のアンケート調査では得にくい詳細についてさらに聴取、確認すること、また4年生には1年生に比べて豊富な学生生活経験をふまえた車の必要性や利便性などを聴取することを目的としてグループインタビューをおこなった（2010年11月～11年1月）。これにより現状としての本学学生の車の所有と使用についてその意識や実態を把握するとともに、現段階でCSについてどのような考えや意見を持つかについて探った。内訳は1年生で5グループ、4年生で3グループの計8グループ、各グループ2～5人で各学部と男女を複数組み合わせで計29人（男性21人女性8人、教育地域科学11人工学部18人、自宅16人下宿13人）である。

3. 調査結果

(1) 車の所有と使用の実態と意識

調査時点での1年生の運転免許取得率は64%であ

キーワード カーシェアリング、車の所有と使用、大学生、アンケート、グループインタビュー

連絡先 〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1 国立大学法人 福井大学大学院工学研究科

原子力・エネルギー安全工学専攻 TEL&FAX 0776-27-8763 E-mail yoshimi@u-fukui.ac.jp

った。また、まだ未取得であるが、「1年生の間に取得予定」が18%、「2年生以降の予定」が10%であり、取得予定まで含めると全体の約90%が在学中に免許取得済みか免許取得予定であった。その一方で車の所有率は27%と低く、また所有者のほとんどは車で通学する自宅生であり、下宿生はほとんど車を所有していないことが分かった。さらに今後の車の所有予定をみると、「予定なし」が23%、「今のところわからない」が54%であり、全体の77%が車を所有することを明確には決めていないことが分かった。これらのことから、免許取得（≒車の使用）は大前提としながらも、車を所有するかどうかは未定であることが確認でき、使用面をサポートできるCSのニーズはあることが確認できた。とくに下宿生について通学時間は10分以内が53%、また10～20分内が25%という結果（通学時間15分以内が68%）から、仮に大学構内にCSステーションを設置した場合、多くの1年生は容易にこのCSステーションにアクセスできる環境にあることが確認できた。

(2) 車の所有と使用に対する意向

1年生の車に対する所有と使用の意向について、所有（車を持ちたいか、持ちたくないか）と使用（車を使いたい、使いたくない）の2つの視点から整理した。それぞれの視点に対して積極的か消極的かによって7レベル（強中弱および中立）で評価してもらった結果を図1に示す。これより、現段階で直接CSのターゲットになりそうな学生は少数ながらも11人あり、アンケート有効回答者全体（400人）の2.8%であった。またマイカー層は292人（73%）であるが、前述のアンケート結果からも分かるように実際には車を所有できない学生が多く、まずこれ

らの学生の一部がCSの潜在的なターゲットになると考えられる。他にも中間層が5%あり、条件次第でこれらもCSのターゲットになり得ると思われる。

(3) CSの可能性と実現化の要点

車を所有する学生の多くは親の援助を受け、また車を所有できない理由として経済的理由を挙げる声が多いことから、学生の車の所有については親の経済状況また意向が大きいことが確認できた。よってCSの経済性を本人とその親に十分理解してもらうことでCS選択の可能性は広がる。また車を所有したり使用したりする中で負担と感じていることには、車の整備（車検等）、事故時の対応などがあることが確認できた。しかしながら実際にはこれらはCSにおいてはすべて対応されており、これらについても十分理解されることで解消できる可能性が高い。他には使いたいときに使えるのかどうかといった使用の確実性、マナー面やトラブル時の対応などCSへの不安や疑問が挙げられているが、車予約についてはこれまでのCS事例からはほとんど問題ないことが分かっている。その他の事項についても丁寧に説明を受け、さらに実験的な実体験を通じて諸問題を解消していくことは十分可能である。

4. まとめ

福井大学学生を対象とした学生の車の所有と使用の実態、意向およびCS選択のアクセス環境に関する基礎調査の結果から、現時点で少人数ながらもCSの需要は見込めることが確認できた。今後、より具体的な検討と詳細調査を進め、その実現可能性について試行実験を通じて検証する必要がある。

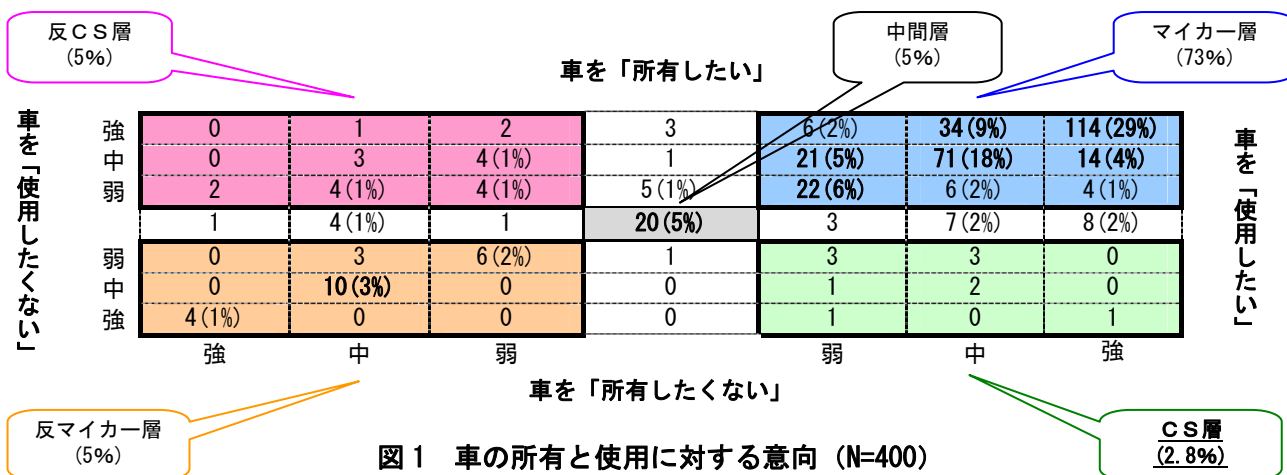


図1 車の所有と使用に対する意向 (N=400)